2021 年度 8020 公募研究報告書報告書 抄録

研究課題：口腔機能の改善は高齢者における動脈硬化リスク改善に寄与するのか？

研究者名：長谷川陽子 1，2、玉城加代子 3、澤田隆 4、岸本裕充 2、小野高裕 1、新村健 3

所属：
1. 新潟大学大学院医歯学総合研究科包括歯科補綴学分野
2. 兵庫医科大学歯科口腔外科学講座
3. 兵庫医科大学内科学総合診療科
4. 兵庫県歯科医師会

概要：高血圧は咀嚼障害による栄養不良と関連しており、高齢者の全身の健康を低下させる。本研究では，口腔衛生と血圧の関係において栄養状態が果たす役割について検討した．日本の丹波篠山地区に在住する農村地域に居住する自立した 65 歳成人 894 名がこの研究に参加した。高血圧は日本高血圧学会のガイドラインに従って分類した．口腔内の状態は，残存歯数，咬合力，臼歯部咬合支持，咀嚼能力，口腔水分，口腔内細菌量により評価した．食事摂取量は，簡単な自記式食事歴質問票を用いて評価した．高血圧の関連因子として，Mann-Whitney U，カイ二乗，Kruskal-Wallis 検定およびロジスティック回帰分析を用いた．
その結果，正常血圧が 30.9%，高血圧が 23.8%，既往歴ありまたは治療中が 45.3%で認められた。高血圧と有意に関連する因子は，年齢，肥満度，臼歯部咬合支持の状態，食塩摂取量および野菜摂取量に関連するナトリウム-カリウム比であった．臼歯部咬合支持がそうしつした参加者は、高血圧のリスクが有意に高かった（オッズ比＝1.72）。本研究により，口腔衛生と高血圧の関連性が示唆されるとともに，臼歯部の咬合支持の喪失が栄養摂取状況に影響する可能性が示唆された．